聞かせて下さい！台湾のこと、台湾とのこと

PAPAGO遊学村インタビュー企画 Vol.2

日本人留学生と台湾人学生が協力して、台湾と関わりのある日本の方や、日本人に紹介したい台湾の方にインタビューしています。第二弾のゲストは、台湾と漫才への愛に満ち溢れた、こちらのお二人です！

大好きな台湾で、大好きな漫才を

太田 拓郎（おおた たくろう）さん
1984年生まれ。高校卒業後専門学校に進学するも、本当にやりたい事は何だろうと悩んだ結果、芸人の道に進むことを決断。2004年に吉本の養成所に入所。

三木 奮（みき ふるう）さん
1984年生まれ。大学時代に中国語を勉強し、交換留学で1年間、中国ハルピンの大学へ。大学卒業後、2006年にナベプロの養成所に入所。

2009年にコンビを結成し、2015年4月に「住みます芸人」として来台

吉本興業と「住みますアジアプロジェクト」

吉本興業は、１９１２年の創業以来、数多くの人気芸人を輩出してきた、日本を代表する総合エンタテイメント企業。その事業内容は、タレントマネジメントを始めとし、エンタテイメントに関わる企画・制作・流通まで多岐にわたる。劇場やテレビ、書籍、インターネットコンテンツなど、幅広い媒体を通し、国内のみならず、近年ではアジアを中心とし、海外でも広く業務展開。

２０１１年４月から、所属芸人が47都道府県に居住し、地域に密着した芸能活動を行う「あなたの街に住みますプロジェクト」を開始。２０１５年には、このアジア版プロジェクトがスタートし、現在、全９組13名の「住みますアジア芸人」が、日本のエンタテイメントを発信するために、アジア各国で活動している。

2015年4月から、「住みますアジア芸人」の台湾担当として、日本の漫才を広める活動をしているお笑いコンビ「漫才ボンボン」さん。冒頭から、私たちの緊張を自然と笑いに変え、場を和ませてくれたお二人に、事前リサーチで気になっていたことから質問してみました。

台湾でも「漫才」

菅原 言語の壁が大きい「漫才」を台湾でも続けているのには、なにか強いこだわりがあるのですか？

太田 僕たち二人は、日本でも漫才が好きでやっていたので、台湾に来ても、やっぱりやりたいことは変わらず「漫才」でしたね。それから、台湾には漫才がないので、僕たちが少しでも日本の文化を紹介できるとしたら、漫才なのかなと思いました。まぁでも、単純に好きだからですね。

菅原 日本の漫才をそのまま中国語に訳すだけでは、台湾の方に笑いが伝わらないですよね。どのように漫才を現地化しているのですか？

三木 初めの頃は、日本のネタをそのまま翻訳したものもありましたが、そうすると、客席から思いがけないクエスチョンが飛んできました。そもそも台湾には「ボケとツッコミ」という考えがないので、僕たちにとっては当たり前の流れでも、台湾の方にとっては「??」となるんです。大変な反面、逆にそれが楽しかったりもします。実際に台湾でやってみて、漫才が日本の文化なんだと改めて感じました。

太田 文化をちゃんと理解した上で、丁寧に言葉を選んで、台湾の流行を取り入れたり、日本の文化を紹介するネタを作ったりもしています。いい反応が返ってくると、お客さんと一緒に漫才を作っているんだなぁ、と感じますね。

伝えたいから学び続ける中国語

大城 どのようにして、わずか2年間で、漫才が出来るまでに中国語が上達したのですか？特に太田さんは、中国語の学習経験がないまま台湾に来て、今は言語交換を中心に勉強しているとのことですが…。

インタビュアー

涂 燕如
輔仁大学
日本語学科
英語学科　5年

菅原 悠希
東北大学
経済学部経済学科4年
国立台湾大学交換留学生

大城 千加
琉球大学
観光産業科学部観光科学科4年
国立台湾大学交換留学生

太田 僕は、学校に行けない分、毎日の生活で使う言葉は何か、と考えながら過ごしています。難しいことは喋れないので、例えば「ごはん」に関連する言葉を沢山覚えて、「この話題に関する事なら沢山話せる！」という風にして、中国語を覚えていっています。そして言語交換では、前日にやってしまった中国語の失敗を伝えて、あの時どう喋れば良かったの？と聞いています。

三木 僕は最近まで語学学校に通っていたのですが、そこで基礎的な文法が全然分かっていない事に気づきました。文法が全てではないですが、基礎もしっかり勉強しなければいけないと実感しました。これまでの二年半は、きれいな中国語を喋るというよりも、面白いリアクション等を求められていたような気がしますが、今後はもう少しレベルを上げて、中国語でしっかり伝えられるようにならなきゃいけないな、と感じています。

「近」くて「違」う

太田 僕たちにとって「漫才」が一番伝えたいことだから、それを伝えるにはどうしたらいいか？と考え、勉強しているうちに、徐々に生活の中でも中国語が使えるようになってきました。漫才が、僕たちの中国語を成長させてくれたんですよね。

涂 台湾のお客さんを笑わせる為には、台湾の文化も知らなければなりませんよね。

太田 人と人との距離感は台湾の方が近いと思いますね。初対面の女の子に自撮りしようと言われたときも、めっちゃ距離が近くて、「この子俺の事好き？！」みたいな（笑）

三木 日本だったらないよね。本当ドキドキしますよ～。

涂 距離感が近いと言えば、大阪のおばさんもそうですよね。

三木 そうそう、大阪と台湾のおばちゃんがけっこう似ていて、家の近くの朝食屋さんの近くを通るたびに止められて、30分くらいずっと喋ったりしています。おばちゃん可愛いんですよ～。

太田 やっぱり、台湾は人が優しいですよね。

僕は中国語が全然できないとき、食べて食べてと勧められたものをとりあえず全部食べていたら、もう15キロくらい太っちゃいましたね（笑）

学生 あれ、以前私たちが観た動画では8キロとおっしゃっていましたが…？

太田 日々進化しているので！！（笑）

涂 次は職場のことについてお聞きしたいのですが、日本と台湾の芸能界にはどのような違いがありますか？

太田 収録をする時、日本では台本があってだいたい流れが決まっているのですが、台湾は何もないんです。全部その場で考えて決めていくという感じなので、最初はびっくりしましたね。

三木 日本では今でもテレビがメインですが、台湾ではフェイスブックやユーチューブなど、インターネットの力が日本より強いと思います。

菅原 日本と台湾、どちらのやり方が好きですか？

太田 ん～、難しいですね。台湾では、日本を紹介する番組に出演することが多く、そのときは、電話交渉から現地での通訳まで、全部僕たちがやらせていただきました。これは日本ではなかなかできないことので、台湾の方が、自分たちのやりたいことがより実現しやすいと思います。これから中国語や表現の仕方がもっと上手くなったら、台湾のテレビに出る楽しみもどんどん増えていくのかなと思います。

大城 台湾人と一緒に働いてみて、日本人とどんな違いを感じますか？

太田 台湾人の方が表現方法が直接的で、効率的な方を好みます。ダメなときはダメとはっきり言われるから、最初は傷ついたけど、そこに悪意がないと分かっているので、今はもう慣れました。

菅原 日本人は、本音と建て前を使い分けますよね。

台湾人が僕を救ってくれた

太田 そう。日本人同士では社交辞令で済むことも、台湾人にとってはただの嘘つきになってしまいますからね。仕事だけでなく、人付き合いをするときも、本当の自分の心を伝えなきゃいけません。

菅原 苦しいこともあったと思いますが、どう乗り越えて来たのですか？

太田 台湾に来て最初の3か月から半年ぐらいは、正直かなりきつかったです。でも、台湾に来ると決めたのは自分の決断だし、悔しかったら言葉を覚えればいいし、弱音を吐いてもしょうがないからとりあえずやってみよう！と思いました。でも、どんなにきつくても台湾の人がずっと優しかった。僕がきついときに救ってくれたのは、台湾人だったんですよね。

三木 僕は10年程前、大学時代に中国のハルピンに留学した経験があるのですが、台湾に来て初めて、中国大陸の中国語と、台湾の中国語が全然違うことを知りました。僕が通っていた台湾の学校では、注音で中国語を教えられるので、僕は台湾で漫才をやる上で、一からというか、マイナスから今まで覚えたものを全部変えていかないといけないと感じました。

菅原 三木さんは中国語を学習した経験があるので、台湾に来てもあまり中国語の面では苦労しなかったのかと思っていました。

三木 それがもう苦労だらけ。初めの頃は、周りから中国語が喋れる方みたいな感じで見られていたので、自分の中で焦りがあったと思うんです。だけど「何だこの字？！」と思いながらも注音を学んでいく中で、発音の違いが理解できるようになったり、台湾の方にも、「こいつしっかり学ぼうとしているな」と喜んでいただけたりして、もっと台湾のことを知らないといけないし、台湾で漫才を「させてもらっている」っていう気持ちを忘れたらだめだな、と思うようになりましたね。

「住みます」を徹底

涂 言語を学ぶこと以外に、台湾でしかできないことはありますか？

太田 毎日の生活が台湾でしかできないことですね。市場で、生肉の塊を店員さんと会話を交わしながら買うなんてことも日本では絶対にないですし、ホンネで付き合うことの楽しさを教えてくれたのも台湾です。日本人は90点を100点にするためにみんなボロボロになって働きますが、台湾人は、80点でもみんなで楽しくやっていこう、という雰囲気です。人と接するときは台湾式で、自分が漫才を作るときは日本人としていいものを作ろうと少し頑張る、このような考えも台湾に来たから気づけたことです。

三木 僕は自転車で台湾を一周したり、台北101の階段レースや、台南の爆竹祭りなどに参加したりしてきました。そういう台湾ならではのことをやりたいとか、発信したいという気持ちももちろんありますが、太田が言うように、住んでみて気付くことが本当に大事だなって思うようになりましたね。台湾に住みながらお笑いをやっているのが、僕らしかいない、っていう最大の強みを生かしてこの身近なことを発信していきたいです。

太田 日本に住んでいた頃当たり前だと思っていたことが、日本の当たり前であって、世界の当たり前じゃないんだということに気付けたのも、台湾に来たからですね。

面倒臭いからこそ大雑把だからこそ

菅原 以前、太田さんが「日本と台湾の架け橋になりたい」とおっしゃっている動画を見たのですが、具体的には？

太田 仕事をしている中で、日本人からすると台湾人は雑、台湾人からすると日本人は面倒くさい、と認識している部分があると感じます。でも、日本人は面倒くさいから凄いものを作れるし、台湾に住んでいて楽だと感じるのは、台湾人の大雑把な性格がもたらしてくれるものだと思うんです。僕は両方の良さを知っていて、中国語も日本語も喋れるので、間に入って、お互いの良いところを言われることがありますが、そういう風に勘違いはして欲しくないですね。なんで好きでいてくれるのかということを考えたり、勉強したり、まず感謝する気持ちがないといけないと思います。

三木 あと、僕はそんなに台湾でモテないんですけど、この件についてもうちょっと討論しませんか？

（一同爆笑）

太田 しません！

学生 本日はありがとうございました。どのお話も興味深く、とても勉強になりました。こちらからも応援しています！

太田 日本で働くのは大変なので、日本に行きたいと思う台湾人は本当にすごいなと思いますね。でも、もし嫌になったときは、元々何で行きたいと思ったのかを思い出して欲しいです。日本の景色だったり、好きな食べ物だったり…。それを作っているのは日本人ですからね。

三木 台湾は親日だとか、日本人はモテるんでしょ？とかちゃんと伝えられるようになりたいです。

大城 現時点でどれぐらい伝えられていると思いますか？

太田 いやぁ、まだ全然伝えられていないですね。日本に詳しい台湾人が多いのに比べて、日本人は、台湾の事を知らな過ぎると思います。台湾に来るまで小龍包も知らなかった僕が言えることじゃないんですけどね(笑)台湾人の日本に対する単純な愛情から、歴史的背景を含んだ深いものまで、僕らが台湾で生活することで、日本の方が分かるようにしっかりと伝えていきたいですね。

原点を忘れないで

学生 最後に、日本に留学に行きたい、仕事をしたい台湾人、また逆に台湾に来たい日本人に向けてメッセージをお願いします。

最後に、漫才ボンボンさんの決めポーズで記念写真！

参加学生の声

まず、この度はPAPAGO遊学村さんから日本語でのインタビュー、記事をデザインする機会を頂き、誠にありがとうございました。一緒にインタビューをしたパートナーには、事前調査から記事制作の中で様々な事で助けてもらい、本当に感謝しています！また、インタビューのために、事前にお笑いに関することや、吉本興業様について調べたことで、エンタテイメント業界に関する認識も深くなり、その中の資料を理解することで日本語の勉強にもなりました。そして何より、インタビューで漫才ボンボンさんの台湾に対する気持ちを聞き、非常に感動しました。お二人が台湾で頑張っていらっしゃる姿を見て、私自身も頑張らなければならないと、良い刺激を受けました。

このプロジェクトを通し、自分の至らないところを知ることができたとともに、自身の日本語力も一層伸びたと思います。これからも、今回学んだことを活かし、頑張っていきたいと思います。

涂 燕如

事前調査から記事作成まで、三人で一つのプロジェクトに取り組むことは、私が想像していたよりもずっと難しく、完成したときは大きな達成感がありました。学校の授業では得られない、貴重な経験をさせていただき、参加して本当に良かったと感じています。

お二人のお話を聞き、「働くこと」について、改めて考えさせられました。お二人のように、好きなことを仕事にできる人は、実際には少ないと思います。ですが、自分は何が好きで、何がしたいのか、その初心を忘れずにいることが、前向きに働く一つの秘訣なのではないかと感じました。慎重な性格の私にとって、「好きなら挑戦してみたらいい」という考えも、非常に印象的でした。この台湾という地で漫才ボンボンさんにお会いできたことを、大変嬉しく思います。

太田さん、三木さん、一緒にプロジェクトに取り組んだ二人、そしてこのような貴重な機会を提供してくれたPAPAGOに、心から感謝しています。

菅原 悠希

今回のインタビューを通して、お二人から素敵なお話をたくさん聞きましたが、その中でも、「反省はしても、後悔はしない人生を送る」という言葉が、とても私の胸に響きました。私は、日本へ帰国してすぐに就職活動が始まります。自分がどんな人生を歩んでいきたいのかしっかりと見つめ直し、自分の目標に向かって突き進んでいきたいと思います。

また、今回、事前リサーチから記事の作成をする中で、メンバー間での意思疎通が上手く行かず非常に苦しいときもありましたが、PAPAGOスタッフの方々のサポートもあったおかげで、三人で協力して一つの記事を作りあげることができました。今回のインタビューを通して、人と助け合い、支え合うことが社会で生きていく上で大切なことだと学びました。この企画に参加していなければ、気付けなかったことです。私の留学生活の中で、非常に意義のある経験をすることができました。ありがとうございました。

大城 千加

漫才ボンボンさんからのメッセージ

学生の皆さん、PAPAGO遊学村さん、今回は本当にありがとうございました。偉そうな事を色々言いましたが、僕達はまだまだでこれから頑張っていかないといけません。そんな僕らの話を熱心に、そして真摯に聞いてくれた三人の姿を見て、逆にこちらが勇気や元気をもらってしまいました(笑)

太田 何かを決断する時一番大事なのは後悔しない事だと思います。『なんでも行動してみる』というのは素敵な考え方ですが、『やらない』という選択肢を持たないのとは違うと思います。色々な選択肢があるからこそ、そこに本当の決断が生まれると思うので、色々悩み後悔しない選択をしてもらえたらと思います。

三木 学生から社会人になるに辺り、思い悩む事は多々あると思いますが、「大変」とは「大きく変わる」と書きます。「大きな成長の第一歩」と考え、これからも、共に歩んで行きましょう。

今回質問に答えていく中で初心を振り返ることも出来、本当に感謝です。皆さんがこれから素晴らしい道を見つけることを心から願っています。その暁には是非僕達を使って下さいね(笑)

一人でも多くの人に届けたいと思うような、笑いあり涙ありの濃密な二時間でした。漫才ボンボン様、本当にありがとうございます。言語や価値観が異なる人達と一つの物を作りあげる事は決して容易ではなく、インタビュアーの皆さんとは、厳しい討論をする事もありました。しかしその甲斐あって、このメンバーでしか作れない面白い記事ができたと思います。ありがとうございました。お疲れ様でした！

コーディネーター 宮城 歩果

PAPAGO遊学村は、台湾のこと、台湾の中国語のことを「もっともっと」知っていただくために、様々な形で発信を続けています！

学びの先にある夢を応援します！
PAPAGO遊學村 台湾留学支援室

公式サイト
電話：886-2-2511-1415
住所：台北市松江路182号7F-1
公式URL:
http://www.papago-taiwan.com/